

# 国語科 学習指導案

日時 平成 18 年 11 月 15 日 (水) 5 校時  
 学級 2 年 3 組 (男 17 名 女 19 名 計 36 名)  
 授業者 井上 芳枝

1 単元名 古典に親しむ「漢詩の風景」

2 単元について

(1) 教材観

学習指導要領では「読むこと」の配慮事項として、「古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること」とある。1 学年では、「古典と出会う」という単元で、古文は竹取物語、漢文は故事成語の書き下し文を読み味わった。その既習事項を基礎として、2 学年では古文で枕草子、平家物語、徒然草を読み、漢文では漢詩を学習する。漢文を理解する基礎としての、返り点や送り仮名などを学習するとともに、昔の人々のものの見方や考え方に触れ、古典に親しむ態度を養いたい。

(2) 生徒観

意欲的に発言をする学級であるが、古典に対する苦手意識は高い。多くは、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことや、古語を現代語訳することに難しさを感じている。その上、漢字が並んでいる漢詩は、見た目だけで難しいのではないかという先入観を抱きやすい。そこで、音読に多く取り組ませることで、抵抗感を除き、文章の持つリズムを楽しみつつ学習させたい。そして、中国古代の自然と人の心を読み味わい、自分の心情や経験とからませて考えさせたい。

(3) 指導観

本校の研究主題は、「意欲的に学習に取り組む生徒の育成はどうあればよいか～基礎・基本の定着を図る指導の工夫を通して～」である。漢文の基礎を学ぶ上で、漢詩は返り点の規則性が理解しやすく、構成もとらえやすいので入門に適している。書き下し文と照らし合わせながら、繰り返し音読し、読み慣れるようにさせたい。また、時代背景を知り、生き方などに触れる中で、古典を読み味わう楽しさを感じさせたい。

3 単元の指導計画及び評価計画

(1) 単元の指導目標

古文や漢文に読み慣れ、その時代の人々のものの見方や考え方にふれる中で、古典の世界に親しむことができる。

(2) 指導計画と評価計画

時	指導内容	観点別評価基準				
		国語への関心・意欲・態度	話す能力 聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	漢文の基礎を理解し、「春暁」の内容を把握し音読する。	意欲的に音読に取り組んでいる。			作者の心情を理解している。	書き下し文や訓読文、返り点や送り仮名などを理解している。
2	「絶句」を読み、漢詩のリズムに親しむ。	返り点を理解し、音読している。			詩に描かれた情景や心情を理解している。	返り点や送り仮名を理解している。

3 本 時	「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に ゆくを送る」を読み、心情を 理解して音読する。	積極的に音 読している。			情景や心情を 理解し、音読に生 かしている。	返り点や倒 置法など、漢 詩の知識を理 解している。
-------------	---	-----------------	--	--	------------------------------	-------------------------------------

#### 4 本時の指導

##### (1) 本時の目標

- ・音読することで、返り点に読み慣れる。【関心・意欲・態度】
- ・「黄鶴楼にて...」の詩に描かれている情景や作者の心情をとらえさせる。【読む能力】
- ・返り点や倒置法など、漢詩の知識について理解させる。【言語事項】

##### (2) 本時の評価規準

評価の 観点	評価 規準	具体的評価規準		C努力を要する生徒への 支援の手立て	評価場面 (方法)
		A十分満足できる	B概ね満足できる		
国語への関 心・意欲・ 態度	訓読文 を音読し ている。	返り点や送 り仮名を理解 して、正確に音 読しようとし ている。	返り点や送り 仮名を確かめな がら音読しよう としている。	書き下し文を参 考にしながらい 音読させる。	音読(観察)
読む能力	詩の情 景や心情 をまとめ ることが できる。	解説を参考 にして、情景や 心情をまとめ ている。	解説から、情景 や心情を説明し たところを抜き 出している。	本文のどこに書 いてあるかを示 す。	ワークシート の記入、発言 (観察、発言)
言語につい ての知識・ 理解・技能	返り点 の示す順 番がわか る。	返り点の示 す順番に、自分 で番号を付け ている。	返り点の示す 順番に、友人と相 談しながら番号 をつけている。	返り点の法則を 説明しながら取り 組ませる。	ワークシート の記入、発言 (観察、発言)

##### (3) 研究内容との関わり

###### ア 本時の基礎・基本

- ・返り点を理解し、正確に音読する。
- ・作者の心情を理解する。

###### イ 定着を図る指導の工夫

- ・音読による読み慣れ...漢詩の書き下し文を読み慣れることで訓読文の返り点を理解させる。
- ・反復...既習漢字の書き取り練習をすることで確認をさせる。  
既習事項を振り返り、返り点の知識を定着させる。
- ・転写法による言語化...漢詩の基礎知識をまとめることで記憶を新たにさせる。

###### ウ 動機付けの工夫

- ・本時の課題を理解するための教具の提示【興味・関心】
- ・音読形態の工夫による自己表現の場の設定【有用感】
- ・昔の人の気持ちを理解し、自己と比較する中で古典に親しむ【有能感】

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導及び支援の手だて 指導の留意点 支援	評価の視点 具体的評価規準(評価方法)	研究内容との関わり
導入 10分	1 漢字チェック	音や訓でヒントを与える。	<b>【興味・関心】</b> A 漢詩の基礎知識を想起しているか。 B 発表を聞きながら確認しているか。(発言、観察)	反復・ドリル学習  転写法
	2 前時の確認	漢詩の基礎知識として学習した内容を想起させる。		
	3 学習課題の確認	課題を音読して意識させる。		
李白はどんな気持ちでこの詩を詠んだのだろうか。				
展開 30分	4 「黄鶴楼にて…」の詩を音読する。	書き下し文を範読に続いて読ませる。	<b>【読む能力】</b> A 解説を参考にして、情景や心情をまとめている。 B 解説から情景や心情を説明したところを抜き出している。(発言、観察)	教材の工夫 【興味・関心】  反復
	5 描かれている情景や心情をとらえる。	教科書の解説を手がかりに内容を読み取らせ、発表させる。 感情を表す言葉が使われていなくても気持ちが伝わることを理解させる。		
	6 形式や表現技法についてまとめる。	倒置法に気付かせる。 返り点の示す順番に番号を書かせる。 一、二点の返り方を理解させる。		
	7 訓読文の音をする。	全体で確認しながら音読する。 ペアで交代しながら読ませる。	<b>【言語事項】</b> A 返り点の示す順番に、自分で番号を付けている。 B 友人と相談しながら番号を付けている。(観察、発言)	音読 形態の工夫 【有能感】
		<b>【興味・関心】</b> A 返り点や送り仮名を理解して、正確に音読しようとしている。 B 返り点や送り仮名を確かめながら音読しようとしている。(観察)		
終結 10分	8 中国語の朗読を聞き、韻を踏んでいることを確認する。	朗読している部分を示しながら、理解させる。		教材の工夫 【興味・関心】  【有用感】
	9 まとめの一斉読みをする。	情景や心情を踏まえた朗読を心がけさせる。		
	10 自己評価をする。	漢詩の学習全体を振り返って書く指示する。		